

令和3年度第1回草加市みんなでまちづくり会議

議 事 録

1 開催日時

令和3年7月12日（月）午後4時～午後6時

2 開催場所

草加市立高砂コミュニティセンター 集会室

3 出席者

(1) 参加者 18名

(2) 事務局 みんなでまちづくり課：森田課長、巖上課長補佐、池田主査

総合政策課：高見主事

4 会議の議題

「SDGs（持続可能な開発）の視点から考える 2030年に向けた草加のまちづくり」

※ 全3回の第1回目

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴者数

0人

7 会議の主な内容

○ みんなでまちづくり会議について

みんなでまちづくり会議とは、草加市みんなでまちづくり自治基本条例第26条の規定により、まちづくり登録員で構成する会議を開催し、まちづくり計画の提案についてなどの議論により、市民参画を実現する場として開催しています。みんなでまちづくり会議には、3つの機能を有しており、①市民同士の話し合いから、市民同士の交流・連携を促進すること、②市からの発信・情報共有により、市民活動の活性化を図ること、③市民の皆様から協働の提案をいただき、その提案について考えることがあります。みんなでまちづくり会議は、この3つの機能を通じた市民自治とパートナーシップによるまちづくりにより、市民参画を実現する場となっています。

みんなでまちづくり会議は、平成16年に草加市みんなでまちづくり自治基本条例が施行されてから開催されていますが、市民活動を取り巻く環境の変化により、いくつかの課題を抱えています。近年の開催状況を見ると、市からの発信・情報共有の機能により主に開催されており、会議に参加しているまちづくり登録員は10名前後となっています。まちづくり登録員を対象に、会議に参加しない理由をアンケートしたところ、「関心のあるテーマがない」、「他の市民同士の議論の場や市との意見交換の場がある」、「一部の参加者しか発言せず、自分の意見が言いにくい」との意見をいただいたところです。

また、平成30年度から令和元年度に行われた、草加市みんなでまちづくり自治基本条例市民検証委員会からの検証報告では、時代に合った条例の運用が求められ、まちづくり登録員制度を含めたみんなでまちづくり会議の今後の方向性についても、①みんなでまちづくり会議以外で、各分野で市民の議論の場が設けられたことをこれまでの成果とし、まちづくり登録員制度を含めたみんなでまちづくり会議とその他の市民の議論の場を整理していくこと、②市側からの働きかけにより、ファシリテーション体制を構築し、市主導で新しい政策検討にあたり、関係する市民・団体から分野横断的に意見を収集する場として活用すること、とのご意見をいただいたところです。

こうした現状を踏まえ、みんなでまちづくり会議の本来の目的である市民参画の実現できる場として活性化していくために、専門的なファシリテーターの配置や継続して参加いただける企画を実施するとともに、より広く市民の皆様の意見を活かした政策形成につながるよう、みんなでまちづくり会議等と他制度の整理を検討します。

○ SDGsについて

SDGsとは、2015年に国連開発サミットで採択された、2030年までの世界共通で取り組んでいく目標のことを言います。貧困、エネルギー、気候変動など、持続可能な社会、それはこの先、皆さんが気持ち良く生活していけるように取り組んでいく17のゴールとそれを具体化した169のターゲットで構成されています。目標達成には、国や自治体、企業だけでなく、一人ひとりの参加や行動が必要になるものです。

なぜ2030年なのかというと、1972年に「成長の限界」という本の中で、再生不可能な資源、人口、一人当たりの食料や工業生産高などの推移をこれまでのデータで未来予測を作成したところ、このままだと、2030年頃に経済崩壊や人口減少により生活維持が困難になる結果が示されています。2000年頃に行われた検証では、ほぼ予測と同じ数値をたどっていることがわかりました。そこで、国だけでなく市民、企業、行政、学校、NPO、地域活動団体など全ての人が力を合わせ、2030年までに未来予測で作成した数値を変えていこうというものになります。

○ 会議の進行について

SDGsに合わせて、みんなでまちづくり会議に参加いただいた皆様にも、まずは2030年にこうなりたいというあるべき姿を考えていただきます。しかし、そのあるべき姿を実現するには、個人、行政、企業など単体だけの力では実現できないこともあると思います。それぞれの目標に対して、それぞれが力を合わせないと目標は達成できません。また、2030年まで10年間ありますので、少し長い期間で考えると難しいこともあるかもしれませんが、2023年にはこれくらいの目標にしよう、2026年までにはこれくらい達成したいなど、細かく期間を区切って考えることも必要になります。ぜひ、皆さんには10年後の草加に想いを馳せて、考えていただきたいと思います。例えば、2030年にみんなが住み続けたい草加を実現したいと考えたときに、子育てしやすい地域、いくつになっても暮らしやすい地域、障がいがあっても高齢になっても地域の中で助け合って暮らせる地域、又は自然が豊かなだけで暮らしやすい地域などがあると思います。目標に対してそれぞれが力を合わせる時に、子育てを例に挙げると、子育て施策づくりは行政の役割であったり、事業者は子育てがしやすいよう

に働き方を工夫したり、個人では子どもたちが楽しめる施設の実体験の情報発信や子育てお役立ち情報の発信ができると思います。空き家を活用した取組みでは、町会単位で空き家を活用した居場所づくりなどがあると思います。このように、それぞれの役割と自分たちのできることを考えていくのは、第2回目以降の会議になると思いますが、まず第1回目の会議では、参加いただいた方それぞれの関心事や取り組んでいることを皆さんで共有できる会にしたいと思います。

○ 参加者の自己紹介及び関心事項の共有

※①関心のある事項 ②2030年までに実現したいこと ③そのために協力してほしいこと

参加者1：①近所のゴミ拾い、在宅ワークが増え、自分が住んでいるまちを見つめなおす

②多文化・多民族が共存できるきれいなまちにしたい

③市民が気持ちよく暮らせるまちに向けて、市はリードしてほしい

参加者2：①空き家問題、ふれあいサロン、多世代交流

②働く場の創出・維持

③官民連携

参加者3：①リビングラボ、オープンイノベーション、食べられる景観アートと教育

②草加の各地に食べられる景観アート、動植物であふれる自然化

③必要な人・組織づくり

参加者4：①モノづくりを大切にす、市民同士が交流するまち、空き店舗、工場、倉庫のリノベーション

②草加市の産業をもっと知ってもら、産業と市民が一体となった街にする

参加者5：①シングルマザーの人助け

②心を美しく

③誉め上手な学校の先生

参加者6：①NP0今様草加宿、草加リノベーションまちづくり、(公財)草加市文化協会、

草加駅東口活性化協議会、商店会

②文化会館の新築、川の駅そうか村の実現、旧日光街道の遊歩道化

③隈研吾氏による設計(国・県からの支援)、スローライフの実現

参加者7：①子供たちのための取組み、公園づくり、交流の場づくり

②子供からお年寄りまで楽しく集える場、公園、安全な町会会館、避難所

③土地の提供、財政的支援

参加者8：①不登校、貧困問題

②子供の貧困と不登校をゼロ

③定期相談スペース、相談支援の広報掲載、協力員の募集

参加者9：①高齢化した住民同士のコミュニケーションづくり、多世代交流のまちづくり

②弱い人に手助けできる街(高齢者、幼児、障がい者)

③行政窓口のネットワーク化、市民の意識向上(モラルのレベルアップ)

参加者10：①中高年者のウォーキング、正しい歩きから、健康と仲間づくり

②要介護者をゼロにする

③中高年者の活動場所の提供

参加者11：①高年者の健康維持・増進活動

②平均寿命と健康寿命の差を限りなく少なくする

③ウォーキング活動が奏功する人々のネットワークづくり

参加者12：①芸術で心に病を持った人が市民生活に参加できるように支援する

②相手の心を大事にできる社会、差別のない社会

③展覧会や映画を通じ、現状を見てほしい

参加者13：①「草加っ子」の育成

②「草加っ子」たちに、将来的に草加に帰ってきてもらいたい

③子どもがまちづくりに参加できる方法を考えていきたい

参加者14：①町会活動、民生委員。安心サポート法人後見支援員

②認知症、要介護でも住み続けられるまち、挨拶や見守りのあるまちづくり

③医療・介護の連携による介護施策の充実、介護者への支援

参加者15：①ヤングケアラー支援

②身近に素朴な楽しみが感じられるまち

参加者16：①お互い様のまちづくり、誰もが住みやすいまち

②組織の法人化、拠点づくり、自由な活動

③事務局できる方募集

参加者17：①人とのつながりを大事にして最後まで自分の意志で暮らしたい

②自分たちで運営できる拠点づくり

③場所の提供をして下さる方を募集

参加者18：①仲間づくりと学習、まちづくりの会の運営

②半径200m以内の人が集まれる憩いの場がたくさんあるまち

③踊りのサークルやガーデニングが得意な人と協働したい